

斎賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 斎賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

検索

<< 2024年08月 >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

最近の記事

(08/28)抗うつ薬中断について・
過剰の心配は必要ないかも
(08/22)ステロイド剤使用のガイ
ドライン・2024年版
(08/20)C型肝炎の再感染・男性間
性交渉
(08/19)熱中症2024年ガイドラ
イン
(08/17)果物と野菜は心血管疾患
ばかりでなく腎疾患にも大事

最近のコメント

鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用
by (09/13)
23価肺炎球菌ワクチンの局所反応
by (07/11)
急性心不全のラシックスの効果減
弱 by (06/10)
小児の腸重積・ロタウイルスワク
チンとの関係について by (05/02)
Ⅱ型糖尿病患者にスルホニル尿素
薬の有効性について by (04/19)

タグクラウド

カテゴリ

小児科(251)
循環器(310)
消化器・P P I(184)
感染症・衛生(328)
糖尿病(155)
喘息・呼吸器・アレルギー(121)
インフルエンザ(114)
肝臓・肝炎(67)
薬・抗生剤・サプリメント・栄養
指導(57)
脳・神経・精神・睡眠障害(72)
整形外科・痛風・高尿酸血症(42)
ワクチン(98)
癌関係(14)
脂質異常(31)
甲状腺・内分泌(22)
婦人科(15)
泌尿器・腎臓・前立腺(56)
熱中症(7)

<< 肺炎球菌ワクチンガイドライン・CDC 2023年版 特に65歳以上の方に | TOP | 運動のやり過ぎに
注意・呼吸器感染症 >>

2023年12月13日

大腸ファイバーの前処置の効果にGLP-1作動薬の影響

大腸ファイバーの前処置の効果にGLP-1作動薬の影響

EFFECT OF GLUCAGON-LIKE PEPTIDE-1RECEPTOR AGONISTS
ON BOWELPREPARATION FOR COLONOSCOPY
:Official journal of the American College of Gastroenterology | ACG

<短 報>



大腸ファイバー・CF検査時には、低血糖を防ぐ意味で糖尿病患者さんの薬を一旦は減量
または休薬しますが、中でもGLP-1作動薬は作用機序から、前処置に不都合との論文が載って
いました。

- ・ GLP-1作動薬を服用群とコントロール群を比較しています。
コントロール群とは検査の3か月以内にはGLP-1作動薬を服用していないものとして
います。
観察期間は、2021年12月から2022年12月までです。
- ・ 結果
GLP-1作動薬群265人と、コントロール群181人を比較しています。
前処置の状態の判定としては、BBPスコアを採用しています。

Grade	Grade Endoscopic findings
0	Represents an unprepared colon segment. The mucosa is not visible due to solid feces, and the fecal masses cannot be removed.
1	Parts of the mucosa in the colon segment can be seen, but other areas of the same segment cannot be seen well due to blockage with stool and/or opaque liquid.
2	The mucosa of the colon segment can be seen well, with minor amounts of residual stool, small fragments of stool and/or opaque liquid.
3	The entire mucosa of the colon segment can be seen well, with no residual soiling.

(下行結腸、横行結腸、上行結腸の3部位での評価を3点で行います。合計点数は9点が
満点です。)

BBPスコアが5点以下は服用群が多い結果でした。 15.5%対6.6%
前処置の不良により、大腸検査の再検率も服用群が多いです。 18.9%対11.1%

- ・ GLP-1作動薬は大腸検査の前処置に明らかに悪影響を及ぼします。

私見)

GLP-1作動薬の注射薬は世界的な供給不足で、本院も使用しているのはインスリンと合剤の
ゾルトファイと、経口薬のリベルガスのみです。
しかし、病院からの患者さんには注射薬も使用しており、注意が必要となります。

過去ログ

- 2024年08月(11)
 - 2024年07月(15)
 - 2024年06月(14)
 - 2024年05月(14)
 - 2024年04月(12)
 - 2024年03月(14)
 - 2024年02月(13)
 - 2024年01月(19)
 - 2023年12月(17)
 - 2023年11月(13)
 - 2023年10月(15)
 - 2023年09月(12)
 - 2023年08月(16)
 - 2023年07月(15)
 - 2023年06月(14)
 - 2023年05月(15)
 - 2023年04月(15)
 - 2023年03月(15)
 - 2023年02月(14)
 - 2023年01月(15)
 - 2022年12月(12)
 - 2022年11月(16)
 - 2022年10月(15)
 - 2022年09月(13)
 - 2022年08月(17)
 - 2022年07月(13)
 - 2022年06月(15)
 - 2022年05月(15)
 - 2022年04月(14)
 - 2022年03月(15)
 - 2022年02月(14)
 - 2022年01月(16)
 - 2021年12月(14)
 - 2021年11月(17)
 - 2021年10月(17)
 - 2021年09月(13)
 - 2021年08月(16)
 - 2021年07月(12)
 - 2021年06月(16)
 - 2021年05月(16)
 - 2021年04月(14)
 - 2021年03月(18)
 - 2021年02月(19)
 - 2021年01月(16)
 - 2020年12月(17)
 - 2020年11月(15)
 - 2020年10月(17)
 - 2020年09月(19)
 - 2020年08月(14)
 - 2020年07月(17)
- 以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

製品名	一般名	用量	用法
ビクトーザ皮下注	リラグルチド	1日 0.3-0.9mg	1日1回皮下注
バイエッタ皮下注	エキセナチド	1日 10-20µg	1日2回皮下注 朝・夕食前（60分以内）
リクスミア皮下注	リキシセナチド	1日 10-20µg	1日1回皮下注 朝食前（60分以内）
トルリシディ皮下注	デュラグルチド	1週間 0.75mg	1週間1回皮下注
オゼンピック皮下注	セマグルチド	1週間 0.25-1mg	1週間1回皮下注
リベルサス錠	セマグルチド	開始：3mg 維持：7mg	1日1回経口投与
マンジセロ皮下注 ※GIP/GLP-1受容体作動薬	チルゼパチド	開始：2.5mg 維持：5mg	1週間1回皮下注

[CF_glp1.pdf](#)

0 0
いいね！

ポスト [ブックマーク](#)

【糖尿病の最新記事】

[糖尿病治療薬・メトグルコに腎保護作用があ..](#)
[糖尿病患者の慢性腎臓病に対するオゼンピッ..](#)
[オゼンピックは心不全の利尿薬の使用を削減..](#)
[頸動脈の内膜中膜肥厚（MIT）は前糖尿病..](#)
[スタチン（脂質異常症治療薬）誘発糖尿病](#)

posted by 斎賀一 at 19:09 | [糖尿病](#)

